

『健康サポート薬局』として地域住民の健康の保持と増進を目指して~大型商業施設での健康相談会の活動報告

行友啓悟

そうごう薬局新下関店

【背景・目的】平成28年より『健康サポート薬局』制度が始まって、処方箋調剤だけでなく、地域包括ケアシステムにおいて地域住民の健康の保持と増進を担うことも保険薬局の役割として、求められるようになった。そのため、薬剤師が主体となって健康相談会等を実施しているが、薬局店舗内の実施では参加者が限られている。そこで、より多くの地域住民の健康の保持と増進を支援するために、大型商業施設で健康相談会を行ったので報告する。

【方法】平成30年3月～11月の間、地域住民を対象に、大型商業施設での健康相談会を3施設、計4回実施した。健康相談会では健康測定機器を使用し、血圧・血管機能・脳年齢・体組成・最終糖化産物・SPO2・握力などの測定を行った。そして、薬や健康食品だけでなく食事や運動など生活全般に関する相談にも対応し、必要に応じて受診勧奨を行った。また、相談者を対象にアンケートを行い、健康相談会後の意識変化を確認した。

【結果】実績は、総来場者数が約950名、総測定回数が4,432回、相談者数が643名であった。アンケートの回答者223名（年齢層の内訳は、70歳以上58%、50～60歳代30%、30～40歳代5%、30歳未満7%）。相談内容は、測定結果78%、運動60%、食生活55%、薬・疾患関連15%であった。健康相談会後の意識変化は、運動の開始43%、食事の改善35%、脳トレの開始10%、受診意向3%であった。

【考察】来場者人数から、地域住民の健康相談会に対するニーズが高いことが示唆される。アンケート結果より、健康相談会で健康測定・健康相談・受診勧奨などを行うことで、健康への意識が高まり健康の保持と増進につながると期待できる。健康相談会の実施には大きな意義があり、今後も地域住民の健康を総合的に担う『健康サポート薬局』として、継続的にその機能を果たすことが重要である。